

様式 3

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部 ・学科等 の名称	専任教員数								非常 勤教 員	専任教員 一人あた りの在籍 学生数	備考
	教授	准教 授	講師	助教	計	基準 数	うち	助手			
							理学 療法 士又 は作 業療 法士 数				
理学法士 科	人	人	人	人	人	人	8人	人	44人	11.9人	
計	人	人	人	人	人	人	8人	人	44	—	

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
<input type="radio"/>	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
<input type="radio"/>	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼任)
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	基礎生物学	15	新井 博仁	兼任
		基礎物理学Ⅰ	8	政野 仁	兼任
		基礎物理学Ⅱ	8	政野 仁	兼任
		基礎数学	8	上北 公司	兼任
		リハビリテーション用語	8	高國 憲二	専任
		データのみかた	8	佐藤 一成	兼任
		社会学	8	中村 聖	兼任
		文書表現法Ⅰ	8	原田 裕輔	専任
		文章表現法Ⅱ	8	吉川 慶子	兼任
		情報処理	7	原田 大介	専任
			8	中尾 学人	専任
		ソーシャルスキルⅠ	23	高國 憲二	専任
		ソーシャルスキルⅡ	23	山本 ともみ	専任
				原田 大介	専任
				長井 勇磨	専任
	原田 裕輔		専任		
ソーシャルスキルⅢ	8	原田 大介	専任		
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	基礎解剖生理Ⅰ	15	曾我部 いづみ	兼任
		基礎解剖生理Ⅱ	15	曾我部 いづみ	兼任
		総合解剖生理Ⅰ	2	吉村 亜樹	兼任

	2	鈴木 暁	兼任	
	5	高國 憲二	専任	
	3	原田 大介	専任	
	3	中尾 学人	専任	
総合解剖生理Ⅱ	8	高國 憲二	専任	
	7	中尾 学人	専任	
身体運動機能学Ⅰ	15	原田 大介	専任	
身体運動機能学Ⅱ	15	原田 大介	専任	
身体運動機能学実習	7	高國 憲二	専任	
	16	原田 大介	専任	
運動学Ⅰ	10	時永 広之	専任	
	5	渡部 恵	兼任	
運動学Ⅱ	15	時永 広之	専任	
運動学演習	15	長井 勇磨	専任	
人間発達	15	笹木 美幸	兼任	
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	障害学概論	8	曾我部 いづみ	兼任
	運動器障害学Ⅰ	8	小林 巧	兼任
	運動器障害学Ⅱ	8	森泉 茂宏	兼任
	神経障害学Ⅰ	8	佐藤 一成	兼任
	神経障害学Ⅱ	2	箭内 雅志	兼任
		2	鈴木 暁	兼任
		11	山本 ともみ	専任
	内部障害学	5	秋元 健太郎	兼任
		7	堀内 俊和	兼任
		3	玉置 茂行	兼任
	発達障害学	8	星 有理香	兼任
	老健障害学Ⅰ	8	大野 大地	兼任
	老年障害学Ⅱ	7	大野 大地	兼任
		1	原田 大介	専任
	精神障害学	4	中陳 寿枝	兼任
		3	菊地 雅史	兼任
		1	星 有理香	兼任

		臨床心理学	8	瀧澤 颯大	兼任		
		リスク管理と予防	4	佐藤 義文	兼任		
			2	鈴木 康太	兼任		
			2	合佐毘 綾子	兼任		
			3	高橋 久仁子	兼任		
			2	齋藤 友枝	兼任		
			1	山本 ともみ	専任		
			1	原田 大介	専任		
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念		リハビリテーション論	15	小林 巧	兼任	
		医療機器のしくみ	15	和田 龍彦	兼任		
		医療関係法規	8	旗手 俊彦	兼任		
		多職種連携	15	菊地 雅史	兼任		
	室内 拓也			兼任			
	山本 ともみ			専任			
専門分野	基礎理学療法学	理学療法概論	1	高梨 僚	兼任		
			1	大野 大地	兼任		
			12	高國 憲二	専任		
			1	中尾 学人	専任		
			理学療法概論演習	2	佐藤 義文	兼任	
		2			遠藤 祐紀	兼任	
		19			高國 憲二	専任	
			理学療法障害学演習Ⅰ	10	原田 大介	専任	
		20			中尾 学人	専任	
			理学療法障害学演習Ⅱ	30	山本 ともみ	専任	
			理学療法障害学演習Ⅲ	6	曾我部 いづみ	兼任	
					3	澤野 純平	兼任
					7	山本 ともみ	専任
					4	原田 大介	専任
					10	中尾 学人	専任
			理学療法障害学演習Ⅳ	15	長井 勇磨	専任	
			理学療法管理学	理学療法管理学	15	山本 ともみ	専任
			理学療法評価学		15	長井 勇磨	専任

理学療法評価演習 I	10	中尾 学人	専任	
	5	原田 裕輔	専任	
理学療法評価演習 II	30	中尾 学人	専任	
理学療法評価演習 III	14	山本 ともみ	専任	
	16	須藤 和恵	専任	
理学療法評価演習 IV	15	原田 大介	専任	
	15	中尾 学人	専任	
理学療法評価演習 V	18	小林 巧	兼任	
	12	南原 亮輝	兼任	
臨床推論	9	今本 大地	兼任	
		三木 貴弘	兼任	
	6	三浦 拓	兼任	
運動器理学療法評価	4	荒木 浩二郎	兼任	
	4	菅原 亮太	兼任	
	7	中尾 学人	専任	
神経理学療法評価	15	長井 勇磨	専任	
内部障害理学療法評価	2	小山 昭人	兼任	
	11	秋元 健太郎	兼任	
	2	原田 裕輔	専任	
発達障害理学療法評価	8	青山 千春	兼任	
理学療法治療学	運動療法総論	30	中尾 学人	専任
	運動器理学療法 I	6	菅原 亮太	兼任
		9	中尾 学人	専任
	運動器理学療法 II	4	佐藤 貴一	兼任
		4	小野寺 智亮	兼任
		7	中尾 学人	専任
	神経理学療法 I	8	南原 亮輝	兼任
		7	長井 勇磨	専任
	神経理学療法 II	15	杉原 俊一	兼任
	内部障害理学療法 I	3	小山 昭人	兼任
		12	秋元 健太郎	兼任
		6	松村 和幸	兼任

	内部障害理学療法Ⅱ	2	大内 みふか	兼任
		5	山本 ともみ	専任
		2	中尾 学人	専任
	発達障害理学療法	4	三浦 利彦	兼任
		4	佐藤 義文	兼任
		4	高島 朋貴	兼任
		2	和泉 裕斗	兼任
		1	堀内 絢子	兼任
		1	木ノ下 哲嗣	兼任
	物理療法	15	滝澤 祐亮	兼任
	義肢学	8	長井 勇磨	専任
	装具学	15	長井 勇磨	専任
	日常生活活動学	4	富永 淳	兼任
		4	須藤 和恵	専任
	理学療法特論Ⅰ	4	綿谷 美佐子	兼任
		3	高間 則昭	兼任
		4	清川 雅文	兼任
		2	三木 貴弘	兼任
		2	今本 大地	兼任
	理学療法特論Ⅱ	4	小山 昭人	兼任
		3	三浦 拓	兼任
		4	加藤 新司	兼任
		4	長井 勇磨	専任
理学療法特論Ⅲ	2	荒木 佑介	兼任	
	9	高橋 久仁子	兼任	
	4	齋藤 友枝	兼任	
地域理学療法学	地域リハビリテーション	15	大野 大地	兼任
	地域理学療法	8	大野 大地	兼任
	生活環境学	4	富永 淳	兼任
		4	須藤 和恵	専任
臨床実習	臨床実習Ⅰ	23	高國 憲二	専任
			山本 ともみ	専任

		原田 大介	専任
		中尾 学人	専任
		長井 勇磨	専任
		原田 裕輔	専任
臨床実習Ⅱ	23	高國 憲二	専任
		山本 ともみ	専任
		原田 大介	専任
		中尾 学人	専任
		長井 勇磨	専任
		原田 裕輔	専任
臨床実習Ⅲ	45	高國 憲二	専任
		山本 ともみ	専任
		原田 大介	専任
		中尾 学人	専任
		長井 勇磨	専任
		原田 裕輔	専任
臨床実習Ⅳ	90	高國 憲二	専任
		山本 ともみ	専任
		原田 大介	専任
		中尾 学人	専任
		長井 勇磨	専任
臨床実習Ⅴ	90	高國 憲二	専任
		山本 ともみ	専任
		原田 大介	専任
		中尾 学人	専任
		長井 勇磨	専任
		須藤 和恵	専任
		阿部 貴至	専任
臨床実習Ⅵ	180	高國 憲二	専任
		山本 ともみ	専任
		原田 大介	専任
		中尾 学人	専任

			長井 勇磨	専任
			須藤 和恵	専任
			阿部 貴至	専任

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
<input type="radio"/>	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
<input type="radio"/>	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
<input type="radio"/>	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
<input type="radio"/>	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
通所・訪問・医療リハビリテーションの見学	1年前期・後期	リハビリテーション論	1年前期
		ソーシャルスキル I	1年通年

検査・測定の体験	2年前期	理学療法評価演習Ⅰ・Ⅱ	1年後期
理学療法評価の実践	2年後期	理学療法評価演習Ⅳ	2年前期
理学療法の実践	3年前期	運動療法総論	2年後期

【自己評価 3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	① 学校関係者評価委員会 ② 西野学園教学監査（教学マネジメント室）
委員名（委員長）	① 濱本龍哉（委員長） ② 米田裕義（教学マネジメント室長）
組織の開催頻度	① 1年に2回 ② 1年に1回
組織の取り組み内容	・教職員の自己点検に基づく学校評価
	・学生による授業評価の分析
	・研究授業及び公開授業の企画並びに委員による参観
	・教育改善の研修会の開催企画
	・教育、教務に関するマニュアル作成と研修
・学校運営、教育業務が法令等に則り適正に行われているかの点検と改善	
自己点検・評価結果の公表	H Pで公表（URL： https://nishino-g.ac.jp/about/johokokai/ ）

【自己評価 4-2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	① 教学マネジメント室 ② 教育課程編成委員会 ③ 学科内シラバス調整会
	委員構成等	① 米田裕義（室長）、学園職員 ② 学内教員数名及び学外有識者数名で構成 ③ 学科教員
	改善の仕組みの実際	① シラバス作成に関する研修会、シラバス作成要領の作成、シラバス内容の確認指導 ② カリキュラム編成、多職種連携の取り組みに関する意見交換、助言 ③ 科目内容、科目間連携の検証と内容改善

【自己評価 4-3】 自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

自己点検・評価及び第三者評価を各組織、教員にフィードバックし、定期的に改善策の検討及び実践・検証を行っている。
 適正な学校運営、効果的な教育活動を実践するため、計画的にマニュアルの整備、研修、学内プロジェクトを実施している。
 また、教務室の環境を教員間でシームレスにすることで、学科内及び学科間の情報共有を日常的に行い、取り組みに関する共通認識を醸成している。